



さて、本日の本題である「ロータリアンは研修が必要か？」ですが、本心、私はロータリークラブとは勉強する所ではなく、体感する所である。と、考えていました。研修委員会に所属して間もない頃、RIのRLI(ロータリー・リーダーシップ研究会)日本事務局長の中村泰治(パストガバナー)が来名された時にそのように申し上げたところ、「その様な事は言わない方が良い」とハッキリ否定されました。沢山のロータリアンの知識を持てば立派なロータリアンか？私は知っているだけでは如何かと思えます。今でも思いは変わりませんが、一つ思い直したことがあります。それは、知っている事は大変面白いという事です。

110年間の間にロータリークラブは変化しています。それは、時代の流れに矢張り影響され、まるで大海原の小舟のようです。昨年のロータリー研究会で、深川純一(パストガバナー)は、ロータリーには変化しても良い事と、変えてはならない事があり、日本でのロータリーは職業奉仕を中心とした一業種一者制は守らなくてはならないロータリアンの真髄である、と言われていました。

必要かではなく、知れば知るほどロータリーが面白くなる。また、岐路に立たされた時の指針も導き出されると思います。

私のロータリアンの真髄は「四つのテスト」

- ① 真実がどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

の4つでひとつ、少しずつでも近づきたいものです。

また、知識を必要とされるのはリーダーシップを発揮してクラブのメンバーに如何にロータリーをエンジョイしてもらえるかの大役を努められる会長エレクトの方々でしょう。地区研修委員会のメンバーは、そのお手伝いをしようと頑張っております。大いに利用して、来るべき年度にむけて自信を持って対応して頂ければ、と思えます。そして、RLI方式による研修の方式もクラブに持ち帰り、活用して頂くと良いと考えております。何より嬉しいことは、研修を終えた会長エレクトの多くの方から、会長を経験されるに当たり研修を受けて良かったと言われる事です。

最近のロータリーにおいて、変わった事があります。職業奉仕に関する事で、近代的互惠主義とも思える事が導入されようとしています。これにも賛否両論ありますが、ロータリアンの本質を忘れない運用をしたいものです。

### 第3回理事会議事録

平成27年9月3日(木)12:00～

名古屋クレストンホテル 例会場

出席者 岩田、川原、森田、武山、山崎、後藤、  
若原、成田

議題

1. 9月27日「秋の家族旅行会」の件
2. カンボジア薬品代送金の件  
補助金の分も立て替えて送る。
3. WFF パネル展示参加 写真選考の件
4. その他

### ロータリアンの歩み2

(ロータリージャパンウェブ【ロータリー関連資料】より転載)

「ロータリアンの定款と綱領のはじまり」

＝組織には目的があり、組織が生まれると規則ができる＝人が集まり、組織ができれば、当然のことながら、規則やその理念といったものが必要になってきます。

今日、使用しているクラブ定款・細則は、どのようにして定められていったのでしょうか。また、今日、ロータリアンがその拠り所としているロータリアンの綱領はどのようにして生まれたのでしょうか。

『ロータリー日本五十年史』には、

最初の定款ができたのは1906年1月で、(1) 会員の職業上の利益の増進、(2) 親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進、をその目的としていたが、その年のうちに、(3) シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞することが加えられた。とあります。

今月号では、5月に発刊した『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』の文章を借りて、ご紹介します。

定款と細則

初期のロータリーには細則も定款文書もなかった。1905年来のシカゴのロータリアン、チャールズ A. ニュートンが1927年にこのように書いている。「私たちは自分たちの規則を完全に理解した紳士協定を作成しようとした。会員は公開の会議で、口頭票で選ばれる。一票でも反対票があれば、入会できない。」

全国的な運営組織のなかった最初の16クラブは、一般に、シカゴ・クラブの定款と細則をそのまま採用していた。法による義務付けがあったためではなく、その方が手っ取り早かったためであった。全米連合会理事会の初回の会合から、役員らは全クラブを拘束する標準的な定款を定める必要性を認識していた。1911年にオレゴン州ポートランドで第2回目の大会が開催される頃には、この問題は緊急の課題となっていた。ロータリーは3カ国に36クラブを有する規模に拡大し、各クラブがそれぞれ独自の定款と細則を掲げていたのである。

シアトルのJ. E. ピンカム議決案委員会委員長は、ポートランド大会に集まった代表委員を前に、クラブがモデル定款と細則を採用することを議決案委員会は勧告すると報告した。この勧告を受けて、ポール・ハリス全米連合会会長はこれらの文書を作成する委員会を任命した。シアトルのアーネスト L. スキールを委員長とするこの委員会は、一年をかけてモデル定款・細則を草案した。スキールがこれを1912年のミネソタ州ドゥルースでの大会での発表すると、代表委員の圧倒的な支持を受けて採択された。その後数年、定款細則は改訂され、一部は書き直されたが、中心的なテーマは今日も変わらずロータリーを導く道しるべとなっている。しかし、定款があるということは、必ずしもすべてのクラブがこれを使い始めたという訳ではない。ロータリアンは実業界の指導者であり、意志決定者であり、規則を課されるよりも、自分で設定するのに慣れていた。(以下、次号に続く)